

横浜環状道路の整備促進等に関する要望

平成 14 年 11 月 19 日

横浜市幹線道路網建設促進協議会

会 長 高 梨 昌 芳

平素から、横浜市の市民生活や産業経済の発展に欠かすことのできない道路網の整備を推進していただき、深く感謝申し上げます。

さて、我が国の中枢機能が集積している首都圏においては、今後とも、活力を十分に生かし、産業経済を発展させ、国際競争力を高めていくことが求められております。そのためには、特に我が国の代表的な港湾を抱える横浜において、交通基盤の充実、とりわけ幹線道路網の整備を進める必要があります。中でも、高規格の環状道路を整備することは、横浜の都市再生の柱であると考えております。

横浜は350万人を超える人口を抱え、東京に次いでわが国第二の大都市であり、首都圏の業務核都市として、重要な役割が期待されています。しかしながら、道路の整備は遅れており、市内各所で慢性的に交通が渋滞し、これら拠点が十分に機能を発揮するにいたっておりません。

また、先般、道路関係四公団民営化推進委員会から、建設中・計画中の路線に関する再検討について言及されており、今後の横浜市の道路整備に与える影響を懸念しております。高速道路整備の必要性については、採算性だけでなく、経済活動など様々な見地から判断すべきであり、早期整備に向けて政府・地方公共団体が責任を持って臨まなければならないと考えております。

今後とも、首都圏及び横浜が、経済活力に満ちあふれ、利便性、快適性のある都市に再生するためにも、横浜港をかかえる横浜圏の幹線道路網の整備は緊急の課題であります。

そこで、次の事項について要望いたします。

1 横浜環状道路の整備促進

横浜環状道路は、横浜市の交通体系の骨格を成すとともに、横浜港と首都圏各地を連絡する高速道路であり、渋滞問題の抜本的解決による交通利便性の向上はもとより、横浜港の国際競争力の強化、さらには首都圏の都市再生に寄与する重要な路線であると考えています。

(1) 横浜環状北線の整備の推進

横浜環状北線は、臨海部と内陸部を連絡し、交通利便性の向上、京浜臨海部などの機能強化、生活環境の改善につながる重要な路線です。事業化にあたっては、本協議会も関係機関に精力的に要望を行った経過があります。一方、民営化推進委員会では、この路線を凍結するかどうかについての議論がなされると聞いていますが、このことにより、事業の進捗に遅れがでることになれば、横浜の産業経済活動に極めて大きな影響を及ぼすものと危惧しているところです。

横浜環状北線については、早期完成に向け、引き続き、国、公団、県、市の責任で事業を推進していた

だくようお願いいたします。

(2) 横浜環状南線の整備の推進

横浜環状南線は、臨海部と内陸部を連絡するとともに、首都圏中央連絡自動車道の一部にも位置づけられ、周辺市域との相互連絡や中央自動車道、関越自動車道との連絡を容易にし、市域の一体化を図るとともに、市民生活の利便性の向上、競争力ある横浜港、活発な産業活動の実現を図るために重要な路線であります。

横浜環状南線は、平成12年3月に一部区間で工事に着手され、国土交通省及び日本道路公団により本格的に事業が進められております。

そこで、横浜環状南線の早期完成に向け、関連街路を含め、十分な予算の確保等をお願いいたします。

(3) 横浜環状道路西側区間の一部(第三京浜道路～東名高速道路)の早期事業化

横浜環状道路西側区間のうち第三京浜道路と東名高速道路の区間は、昨年、都市再生プロジェクトにおいて、都市計画決定を早急に実現するとされました。この区間は横浜環状北線と一体となり、横浜港・京浜臨海部などの湾岸沿いの拠点をはじめ、新横浜都心、港北ニュータウンセンター副都心、及び内陸部の産業集積地とわが国の大動脈である東名高速道路とをつなぐものです。この区間の整備は、横浜経済のさらなる発展に寄与するものであり、ひいては我が国の重要政策である都市再生の観点からも意義のあるものと考えております。

そこで、この横浜環状道路西側区間、特に第三京浜道路港北インターチェンジから東名高速道路横浜青葉インターチェンジの区間につきまして、早期に事業化していただくよう、事業計画の策定と予算の確保を要望します。

2 国道357号(横浜ベイブリッジ区間)及び本牧ジャンクションの早期完成

国道357号(横浜ベイブリッジ区間)につきましては、横浜都心部における交通混雑の緩和、特に大型車交通の転換により、沿道環境の改善と横浜港の物流機能を向上させるものと考えております。また、本牧ジャンクションにつきましても、高速道路ネットワークの強化や、一般道路の交通混雑の緩和等の効果が期待されます。これらの路線は、国土交通省及び首都高速道路公団により、本格的に事業が進められております。

そこで、国道357号(横浜ベイブリッジ区間)及び本牧ジャンクションについて、十分な予算の確保等をお願いするとともに、早期完成を要望します。

3 横浜市への道路整備財源の重点的配分及び有料道路制度の活用

横浜市においては、幹線道路網の整備が最重要な課題であり、そのために十分な財源を確保すること

が不可欠であります。

横浜市は、都市計画道路の計画水準が他の政令指定都市と比較して低いにもかかわらず、整備率も59%と約半分にとどまっています。一方で、全国的に見ても、交通需要は非常に多く、道路整備を行うことによる首都圏経済への波及効果が大きいことが期待できます。

このため、道路整備のための財源を一般財源化することなく、道路整備が遅れている横浜市への重点的な配分を要望します。また、横浜環状道路の早期完成のために、合理的な財源制度である有料道路制度を、今後も活用していくことを要望します。